

KASHIHARA

概要版

橿原市第4次総合計画

橿原市人口ビジョン

第2期橿原市まち・ひと・しごと創生総合戦略



こだいちゃん



さららちゃん

詳しい内容は
こちらから！
是非みてね！



橿原市第4次総合計画
橿原市人口ビジョン
第2期橿原市まち・ひと・しごと総合戦略
＜概要版＞

発行：橿原市
発行年月：令和3年（2021年）3月
編集：橿原市企画政策課
〒634-8586 奈良県橿原市八木町1丁目1番18号
Tel:0744-22-4001（代表）

計画の本編は市ホームページでご覧いただけます。
<https://www.city.kashihara.nara.jp/>
お問い合わせは橿原市企画政策課まで。Tel:0744-21-1108（直通）



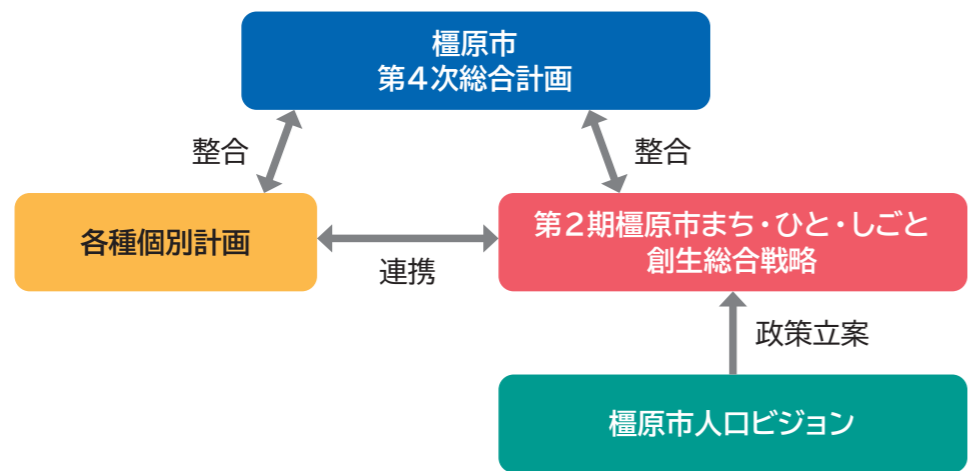
総合計画・総合戦略とは・・・

橿原市第4次総合計画は、今後10年間の本市のまちづくりの基本的な方向を示し、各分野の行政経営の最上位となる指針です。橿原市市民憲章に示された基本姿勢のもと、市民のニーズと社会経済情勢に即して具体化していくためのまちの将来ビジョンと基本的な政策を定めています。

橿原市第4次総合計画は、「基本構想」、「基本計画」、「実施計画」の3層構成の計画とします。また、第6次橿原市行政改革大綱を包含するものとします。

第2期橿原市まち・ひと・しごと創生総合戦略は、国や奈良県の総合戦略を勘案し、第1期橿原市まち・ひと・しごと創生総合戦略の到達点を踏まえながら、基本構想に定める将来ビジョンを戦略的に実現することを目指しています。地方創生を推進する上で戦略的な重点となる目標と施策を明確化し、多様な主体が連携・協働しながら横断的に推進していきます。

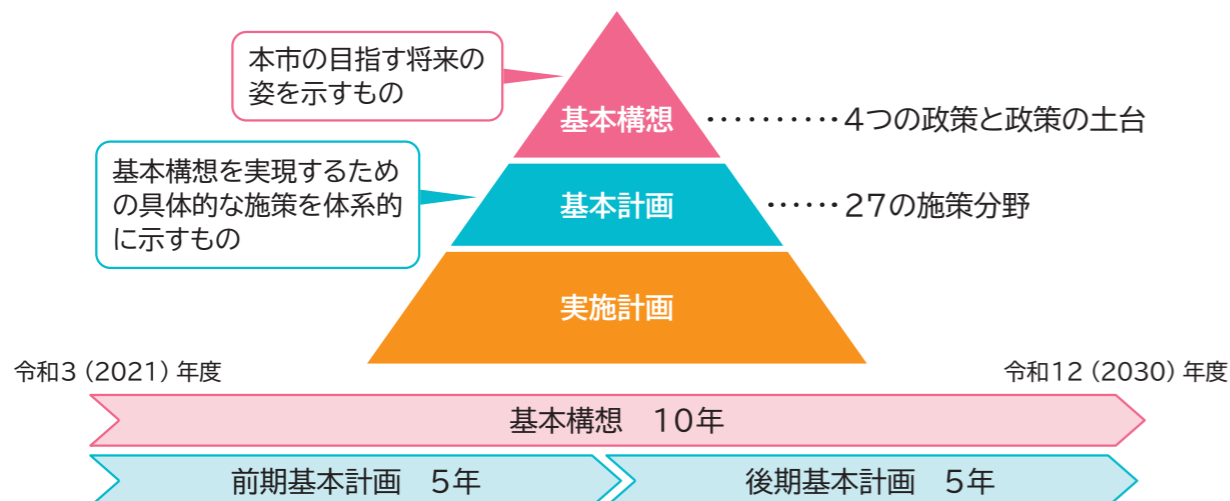
総合計画など人口ビジョン及び総合戦略との関係性



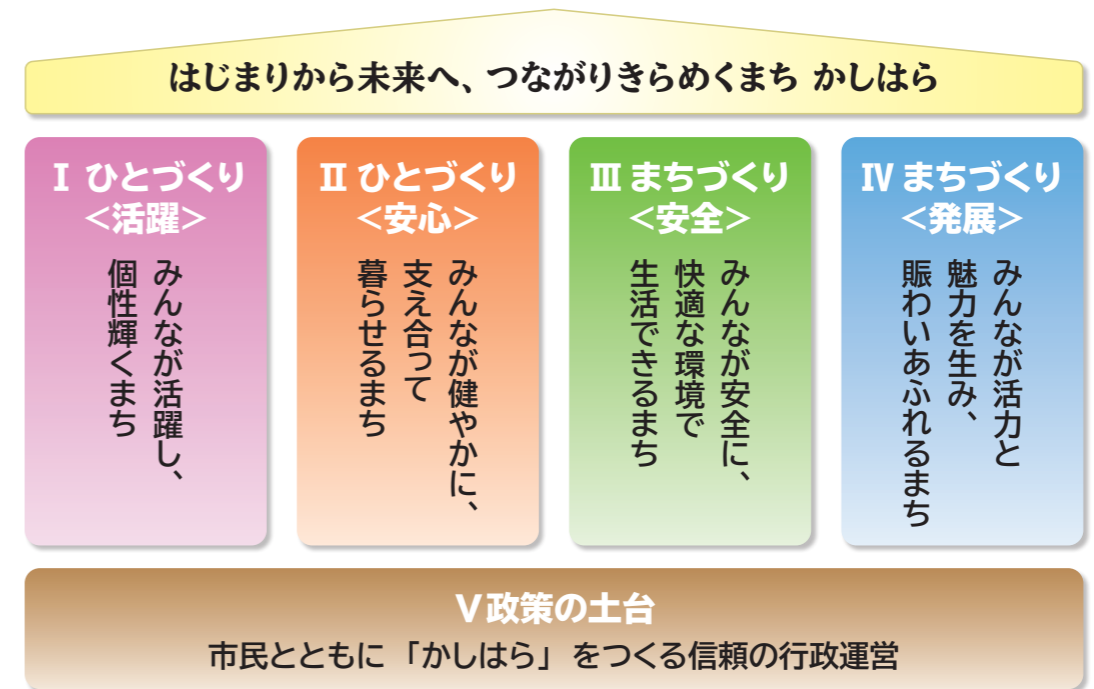
総合計画の構成

まちづくりの理念 人とともに、歴史とともに、やさしく強いまち かしはら

将来ビジョン はじまりから未来へ、つながりきらめくまち かしはら



4つの政策及び政策の土台



計画の背景となる課題

①人口減少社会

国の推計によると、日本の人口は2060年には9,300万人まで減少し、橿原市の人口も、12万2千人から8万3千人まで減少すると見込まれています。人口減少と少子高齢化に伴い、支えられる人に対して支える人が少なくなっています。

②災害をはじめとするさまざまな危機の高まり

大規模な地震や風水害が頻繁に発生しています。特殊詐欺やサイバー犯罪、高齢ドライバーによる事故など日常生活における危機も増えています。常日頃から危機に備えることが求められます。

③新型コロナウイルスによる新たな危機

新型コロナウイルス感染症の世界的な流行が、市民生活や経済活動に大きな影響を与えています。新型のウイルスから、市民の生命・財産と経済活動を守ることが求められます。

④ICTの急速な普及と社会の変化

全世界でスマートフォンなどのICTが急速に普及・発展し、世代や空間を超えたさまざまなつながりや交流を生みだしている一方で、それらを利用した犯罪などの新たなリスクも発生しています。セキュリティとのバランスを取った、新しい技術の活用が求められます。

⑤多様性の尊重と支え合い

ライフスタイルの変化に伴い、地域や家庭における支え合いの基盤や、人と人とのつながりが弱まりつつあります。互いが個性や生き方を尊重し合えるような共生社会の構築が求められます。

⑥「持続可能」な自治体経営

「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals:SDGs)」という世界の潮流を踏まえ、限りある資源を有効に活用しながら、橿原市の仕組みを持続可能な形に最適化していく必要があります。

将来ビジョンに込めた想い

はじまりから未来へ、 つながりきらめくまち かしはら

「はじまりから未来へ」には2つの意味があります。1つ目は日本国はじまりの地という檀原らしさと歴史の深さを次世代に継承しながら、来たる超スマート社会にも対応していくこと。2つ目は人生100年時代を迎えるなかで、人の一生の表現として出生から約100年、安心して暮らしていくことができる市になることを目指すことです。

「つながりきらめくまち」は、本市と関わるすべての人が、人や物、縁、歴史、自然などにつながることで、活気があふれてきらめくような人中心のまちを目指すことを意味します。

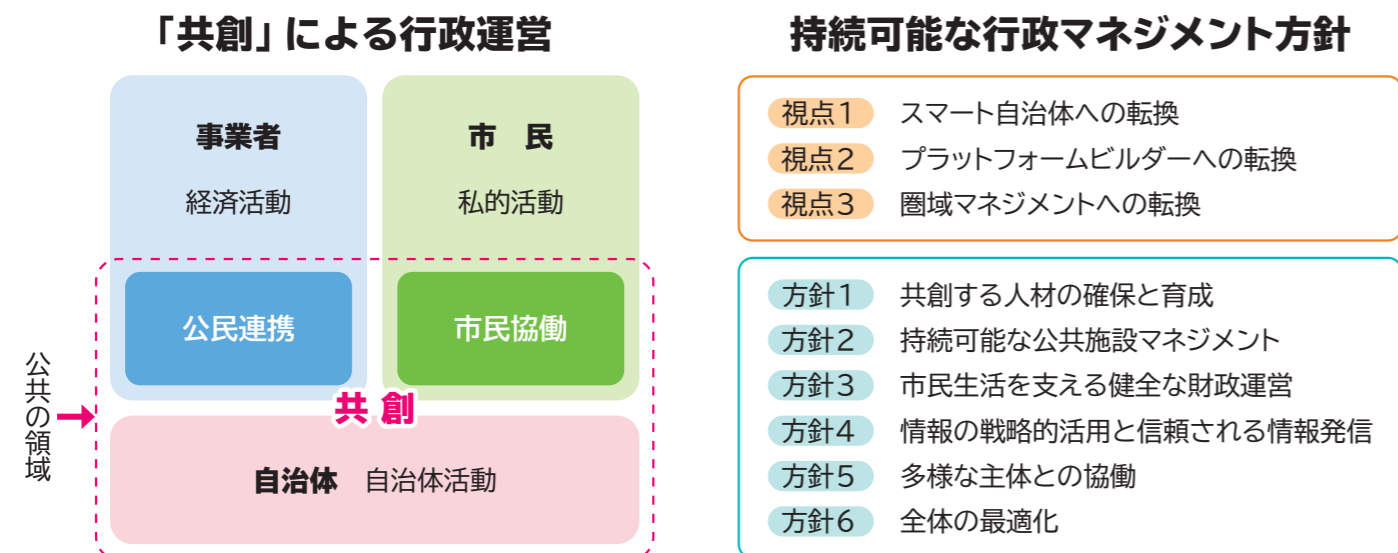
この檀原に住むことに喜びや誇りを感じることや、この地を訪れる人にも来てよかった、住んでみたいという魅力を感じるまちにしたいということから、この将来ビジョンを考えました。

政策の土台に込めた想い

人口減少と少子高齢化の進行による労働力の減少は、社会のあらゆる分野の縮小を招くことから、社会全体としてもこれまでのマネジメントが通用しなくなります。それは、行政運営も同様であり、マネジメントの転換が求められます。ヒト・モノ・カネを効果的・効率的に運営すること、情報やデータを戦略的に活用すること、市民をはじめとする多様な主体と「共創」することで行政運営全体の最適化を図っていく必要があります。

また、近年においては深刻な被害をもたらす大規模な災害が頻発しており、常に有事を意識した危機管理が求められています。そのためには根拠のあるデータの適切な収集・活用・発信を通して、これまで想定されていなかったような緊急事態においても、市民をはじめとする多様な主体とコミュニケーションを図り、「共創」する体制を構築していくことが必要です。

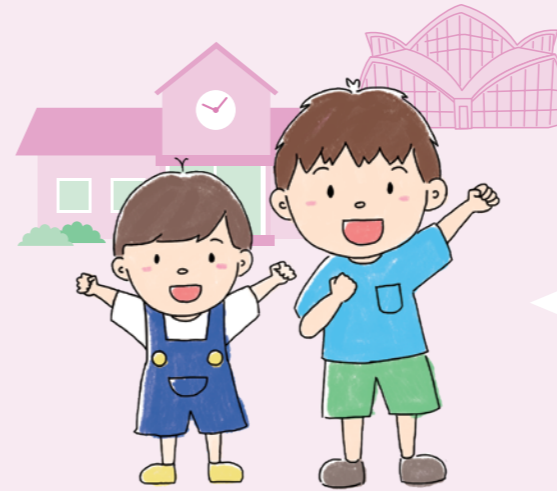
檀原市としては、このような課題に対応していくため、行政運営を4つの政策の土台となる「持続可能な行政マネジメント方針」とし、3つの視点に基づく6つの方針のもと、各政策・施策を実行していきます。



第4次総合計画の目指す姿

イラストに示したような10年後の市民生活を実現するために、各政策は組み立てられています。

I みんなが活躍し、個性輝くまち ひとづくり<活躍>



将来は先生になりたい！遠足で昆虫館に行ったとき、虫が苦手だったけど、いろんなことを教えてくれたからちょっと見れるようになったんだ。虫はまだ苦手だけど、僕もいろんなことをみんなに教えてあげようになりたいんだ。



子育てに不安があったけど、相談できる場所が多くて、助かりました。子どもを預かってもらえるところもあるからリフレッシュできるし、趣味で学生するときにはじめた革製品づくりも自宅でできて、SNSでちょっとした人気者になっています。子育ても趣味も、前向きに考えられています。



ずっと仕事一筋でしたが、退職する前からジョギングを趣味として始めています。マラソン大会に出場してみたり、仲間もできて、楽しく毎日過ごしています。まちの歴史を学び、ガイドもしています。訪問される方にまちの歴史を知ってもらえて、とても生きがいを感じています。

基本計画における 関連施策分野

- | | |
|-----------|-------------|
| 1 保育・幼児教育 | 4 生涯学習・社会教育 |
| 2 学校教育 | 5 科学・文化芸術 |
| 3 子育て・子育て | 6 スポーツ |

Ⅱ みんなが健やかに、支え合って暮らせるまち ひとづくり<安心>



10年くらい前から階段の昇り降りに無意識に手すりを使うようになり、子ども達も私の体力の低下を心配していました。みんなで集まって運動できる場所があって、積極的に運動するようになったので、心身ともに軽くなったように思います。医療機関が多いまちで、安心感があるし、住み慣れた地元で働きながら元気に過ごしていきたいと思っています。

10年前に自治会の役員になったことを機に、地域のためにいろんな活動をされている方々を知りました。普段通っている並木道がきれいなのは当たり前だと思っていましたが、実はボランティアで地域の方々が掃除をしてくれているということが改めてわかりました。地域のために何か活動をしたいと強く思うようになり、仕事をしながらボランティアの方のお手伝いをしています。



仕事を辞めざるをえなくなり、生活が苦しくなったので、将来のことを考えるととても不安でした。でも、いろんな人に相談に乗ってもらえて、支援を受けることができて助かりました。自分だけではどうすれば良いかわからないなかで、早く生活を立て直すことができて良かったです。



基本計画における
関連施策分野

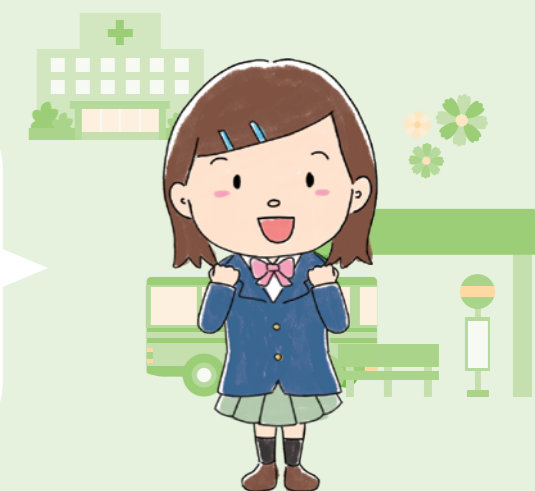
- | | |
|---------|----------|
| 7 健康・医療 | 10 障がい福祉 |
| 8 地域福祉 | 11 市民協働 |
| 9 高齢福祉 | 12 人権 |

Ⅲ みんなが安全に、快適な環境で生活できるまち まちづくり<安全>



以前から、災害や犯罪が少なく暮らしやすいまちだと思います。いざというときのために家族と日頃から話し合っているし、地域でも訓練をしています。「いざというときに何ができるか」という意識は、みんな持っていると感じています。

小学生のときから学校でタブレットを使ってるし、スマホがあればいろんなことが家でできるけど、自転車でスイスイ走ったり、ゆっくり歩きながらきれいな景色を見れるのは楽しいと思う。おばあちゃんは車の免許証を返したけど、いろんな方法で買い物や病院に行きやすいついて言ってたよ。



「もったいない」という思いからものが捨てられず、ため込んでいました。フリマアプリとかシェアリングサービスが使いやすいし、節約にもなるから、ものを手放すようになりました。私にとっては不用品と思っていたものは、他人にとっては不用品じゃなかった！ いろんな「もったいない」にも、こういう考え方が活かされているんですね。



基本計画における
関連施策分野

- | | |
|-------------|-----------|
| 13 防災 | 17 住環境・建築 |
| 14 防犯 | 18 地球環境 |
| 15 交通 | 19 生活環境 |
| 16 道路・橋梁・河川 | 20 上下水道 |

IV みんなが活力と魅力を生み、賑わいあふれるまち まちづくり<発展>



このまちで、生まれ育ちました。生まれたときから変わらない場所がこのまちにはたくさん残っていて、心のよりどころです。変化するまちは、たしかに便利できれいです。でも、生まれた時の景色が失われずに残っていることもこのまちらしいなと思っていますね。

このまちに移住を決めた理由は、どんな人でも新しいことにチャレンジできるところ。オンラインでいろんな手続きができるし、情報も入手できた。僕はショップを開店するけど、思ったことをスムーズに進めることができたし、いろんな人とも出会えた。チャレンジすることに後押ししてくれる環境が整っているのは魅力だね。



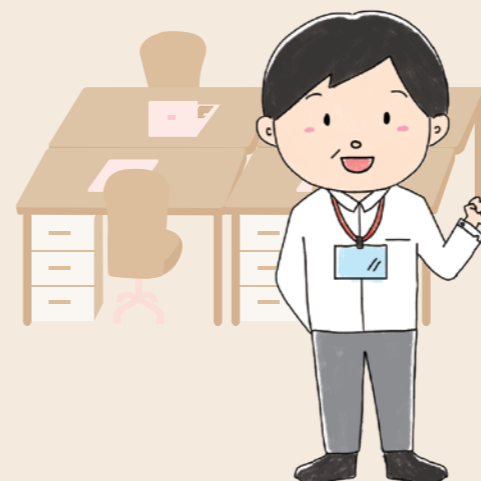
このまちの農家がつくった野菜は、新鮮で抜群にうまいよ。若いやつらががんばって農業をしているし、おいしさだけでなく、安全・安心にも気をつけてくれているから、もう俺が目利きする必要はないかもしれないな。



基本計画における
関連施策分野

- | | |
|-------------|------------|
| 21 公園・緑地 | 24 観光・交流 |
| 22 まちづくり・景観 | 25 商工業・しごと |
| 23 歴史・文化財 | 26 農業 |

V 市民とともに「かしはら」をつくる信頼の行政運営 政策の土台



デジタル化が本格的にいわれるようになって10年が経ちました。市民の方にわざわざ市役所にお越しいただかなくても、手続きができるようになり、私たちの業務も減りました。必要な業務を職員で共有し、市民の方のために、より質の高い仕事ができていると感じています。

10年くらい前から、市民の方や事業者の方と一緒に仕事をさせていただくことが多くなりました。他の部署の方とも一緒に仕事をすることが増えました。市民の方からも提案をいただきますが、いろいろな方と一緒に考えて仕事をすることで、みんなで共に創っていく活力が生まれているという実感があります。



となりのまちの施設を利用できるようになり、活発に交流をするようになってきました。また、クラウドファンディングでたくさんの方々から寄附をいただき、事業を実施することができました。他のまちとの相互補完や財源を意識しながら、仕事ができていると実感しています。



基本計画における
関連施策分野

27 行政運営

橿原市人口ビジョン

日本の人口は2008（平成20）年から減少に転じ、この傾向は今後も続く見通しです。橿原市でも同様にこのまま推移すれば人口減少が加速します。そこで、橿原市のポテンシャルを活かした持続的な発展に向けた人口の将来展望と目指すべき方向性を示し、人口定着と地域活力の創出に向けた施策の立案・推進の基礎資料として2060（令和42）年までを対象期間とした人口ビジョンを策定しました。

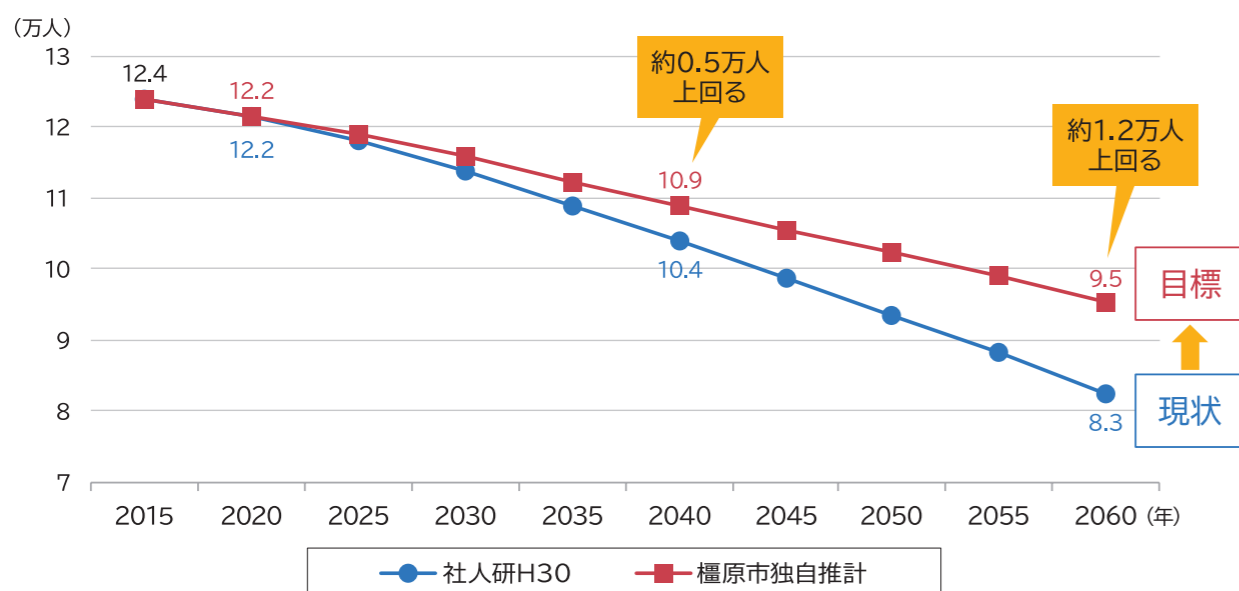
橿原市人口ビジョンは国の長期ビジョン、奈良県の人口ビジョンを勘案して定めています。

将来展望人口

合計特殊出生率（自然増）の上昇や転出超過（社会減）の抑制などを加味した仮定値に基づいた本市独自推計における将来展望人口は、2040（令和22）年は109,012人、2060（令和42）年は95,465人となります。

目指す方向性

人口増加曲線を描くことが理想ですが、短期間で実現することは難しいため、まずは、現状の人口減少の改善に取り組み、目標の達成を目指します。取り組みを継続するなかで、目標の達成が見込まれる場合は、新たな曲線を設定し、さらなる改善を図ります。



「社人研H30」：国立社会保障・人口問題研究所による『日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）』に準じた将来推計値

「橿原市独自推計」：合計特殊出生率（自然増減）及び移動率（社会増減）を本市の考え方（仮定値）により算出した将来推計値

第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略

総合戦略は、人口減少を和らげ、地域の稼ぐ力や地域内の経済循環を高める「地方創生」を実現するために、多様な主体が連携・協働して取り組む戦略的な重点施策を示したものです。

基本目標①

地の利を活かしたしごとの場づくり

～京奈和自動車道を活かした企業誘致と起業支援～

中南和地域の交通や物流の中心地である橿原に魅力を感じて、さまざまな企業が集まってきているのを感じます。私が開いたカフェにも、市内に住んで市内で働く人に大勢来てもらっています。店を開く前に、同じように起業を志す人と情報交換や切磋琢磨ができる環境があったことがありがたかったですね。



基本目標②

新たな人の流れや交流を盛んにする魅力づくり

～自然・歴史・文化を楽しんで魅力発信～

観光で初めて橿原に来た時、歴史・文化・自然の豊かさに圧倒され、何度か訪れるうちに移住を決めました。施設や季節ごとのイベントも多彩で、多くの人が橿原を訪れているのを感じます。地元愛が強い人が本当に多くて、私も市の素晴らしさを日々SNSで発信しています。



基本目標③

安心して子どもを産み育てられる環境づくり

～子育て支援のさらなる強化～

周りに知り合いもおらず子育てに不安しかありませんでしたが、行政の方に妊娠期から優しく寄り添ってサポートしてもらえました。ママどうしの交流や、困ったときに頼れるところが多いのも助かっています。学校教育も充実していて、先生方の丁寧な指導のおかげで子どもが将来の夢を楽しそうに話してくれます。



基本目標④

安心して健康に暮らせるまちづくり

～安心・安全・健康を支えるコミュニティ形成～

地域ぐるみで災害や犯罪への備えをしていこうという雰囲気が感じられ、安心して暮らせています。県立医大や充実したスポーツ施設があるおかげで、市民みんなが健康や運動に関心を持っていて、元気な人が多いと感じます。私も家族と一緒に健康教室に参加したことがありますよ。

